

第14回

浅草文庫講演会より

「泉鏡花と浅草」

その3

講師 上智大学名誉教授

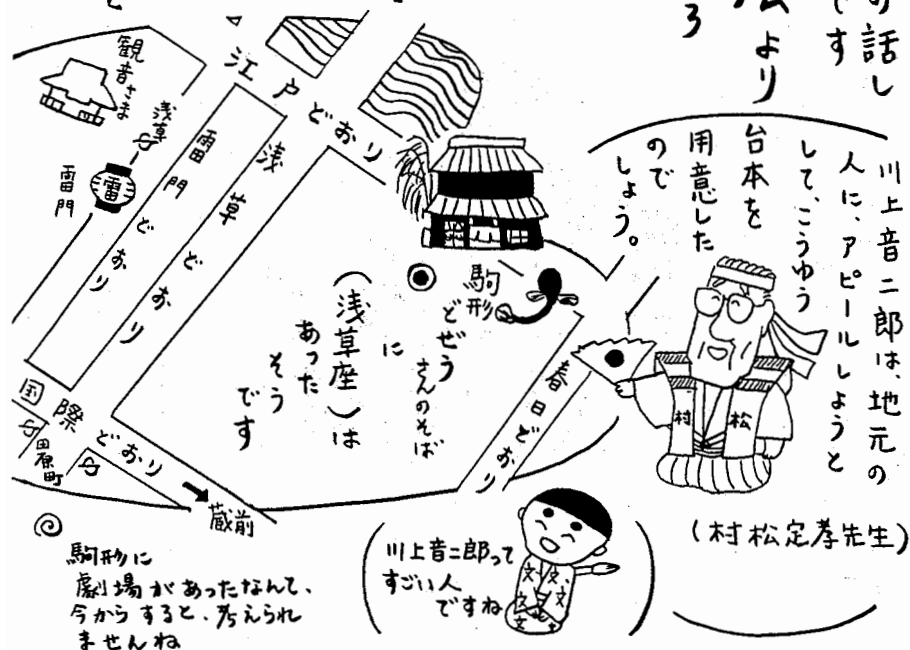
村松定孝先生

◎ 今回も「滝の白糸」のお話し

です

その一にて、鏡花原作の「義経血俠血」が、「滝の白糸」となった、と記しましたが、何と！その川上音二郎一座の、最初の台本には、

隅田川・浅草公園・千束町など浅草の町が、出てくる場面が

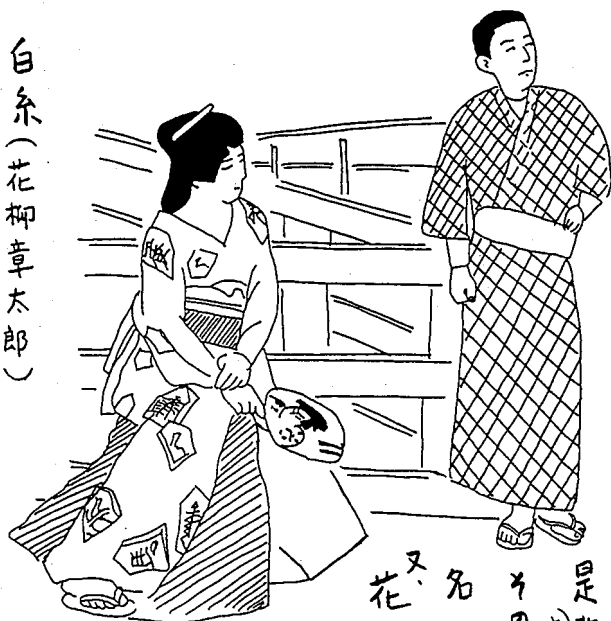


あったようです。

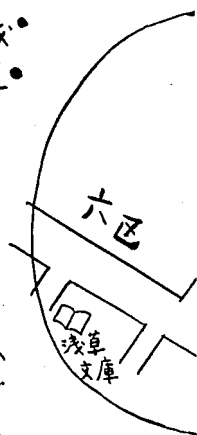
(しかしこれは遂に上演されませんでした)

へ村越欣弥へ

白糸(花柳章太郎)



この浅草の出てくる台本だと、物語りの筋が、又、わかり易くもなるようで、是非上演して欲しいと思いました。
 浅草で、その他、柳永二郎氏に聞いた、名優、喜多村緑郎氏の秘話。
 又、花柳章太郎氏のお話し



など、

学生の時では聞けなかった、お話を頂いて頂き、色っぽい、特別講義でした。有難うございました。



この頃、嫌な事件が多くうんざりの毎日でした。オウム事件もその一つ、丁度伝法院通りの地口行灯の絵が変りましたので、私も例？ によって又一つかいてみました。

これを持ってアド下町（織田編集長）へ行く途中、若いお巡りさんに呼び止められました。「ちよつと、何処へ行くんですか」（オウム事件でピリピリしていたのでしょう）（それに私が怪しく見えたでしょうか…この時はママチャリに乗っていたので）この画を見せますと…「おっ！ うまいですねー」と誉められたのでした。

この年の一月、神戸の大地震があり、死者が四千人を越えた。この三日後、地球の裏側コロンビアでもマグニチュード6・4の地震があり、次いで二日後北海道、神津島、三宅島、伊豆でも地震あり、又ノストラダムスの例の予言の事を考えたのでした…

「逃げる、逃げる、全てのジュネーヴより逃げる」 全てのジュネーヴとは、どこの事を言っているのだろうか？。

この頃、吉村先生の御講演についての画をかいていて、一寸先生に誘われ、吉原仲之町通りの「鈴音」というお店に行き、アコーディオンの村井しげるさんにもお会いしたりしました（礼儀正しい人だなあと思いました）。又吉村先生の優しい、しかし特に厳しいその口元が誰かに似ているなあと前から思っていたのですが、今村先生だとこの時わかったのです。

この二日後、今村先生にも一寸お会いしました。お元気で、猪年ちねに因にだ仁田四郎にたんのしろうについて教えて頂いたのでした。

そしてこの年の三月下旬、地下鉄サリン事件がありました。昨々日のサリン事件は、死者が又増え10人になり、全国のオウム真理教へ強制捜査が入った（3月22日の日記）。四月にはオウムが新宿で何かするというデマが飛んだり、その後の大騒動は皆さんご存じの通りです。

土・土・君の浅草薮

(125) いぐち あんどん
 土世 ロ 行 灯

4の3

歩



「浅草紙」というのがある、と言うので（左図にある様に小林高寿先生の「浅草文庫講演会」でのお話で、なにしろ小林先生は色々なお話をして頂きましたので）、王子の紙の博物館に（ここならその原物があるかなと思って）行ってみたのです。

ありました（こうゆうのって嬉しいのです、本当に）。それは紙と言うより、土の様でした（しかもそれは最近まで使われていたのでびっくり：平成ではありませんヨ）。

小林高寿先生には、この頃お誘い頂きまして（むさしの文学会）、根岸を散策：子規庵、御隠殿跡、うぐいす横丁、たぬき横丁など御案内頂き（なにしろこの辺に住まわれていたので詳しい事）ました。特に寒川老人と防空壕で酒を飲んだお話、御隠殿坂での彰義隊の敗走の模様など印象的でした。この時小木曾さんにも会えたのでした。

高寿先生の「文庫講演会」より一つ：「浅草紅団」について（次のページに）、載せさせて頂きま

す。
この少し前、我通りの七夕まつりは、何とか晴れて仲々の人出。詩二さん、ヘルシー松田さん、ロス・ラテーノス、飛翔さんなどのまわりは、すごい人垣。紙芝居の梅田さんは、ワハハハハ（黄金バツドです）、それから何と言っても嬉しかったのは、我家の前で船橋のばか面踊りの皆さんが舞つてくれた事でした（高瀬さん、有難う）。

この頃、大リーグへ行った元・近鉄の野茂選手、得意のトルネード投法で大活躍！ 震災やオウムの暗い話題をぶつ飛ばしてくれたのでした。この時の新聞にこの様な記事あり：今カツヤクシテイル三人ハ皆、二字…スナワチ…ノモ・タケ・ハブ…ハラはどうかと思う私でした。

君の浅草紙

129 浅草紙



原えつあ
さて私の下手はマンガが、かけるのも紙の発明者と言われる、蔡倫さん（さいりん）たちのお陰ですが：
「あさくさがみ 浅草紙」というのがあった、
（今日の浅草文庫：小林先生のお話）
そうで、こゝ、王子の紙の博物館に、やっつきました。



- 再生紙
- 浅草紙
- 茶色じ土のよう
- いかにも かたそう
- その他、紙の博物館で
- 陶器にほる紙
- 水につよい紙
- たちまち水に
- 溶ける紙
- 煮で固まる紙

見ました



火に流しは、水にとける紙を使っているのだ。す。

「自鼻をかむ紙は上田か浅草か」とあるように、安い自鼻紙として江戸市民に愛用されたのだそうです。



よかった。今はティッシュペーパーがある。

耳心ずかしはがらこは、今まむ矢口はく、川を汚さずはいかと、心西していました。

浅草文庫

第16回講演会より

講師

小林高寿先生
こうじや

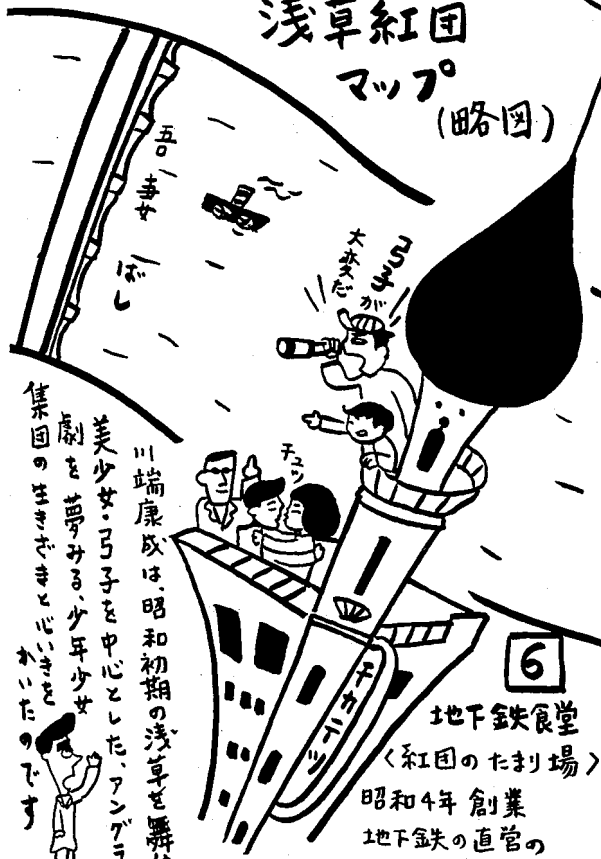
その12
浅草紅団
くねねだん
について

(高寿先生の
お話を元に
マップを
つくって
みました)
原えりあ

さしその
浅草紅団
の
だいたいの
あうすじ
ですが
し



浅草紅団
マップ
(略図)



地下金食堂
<紅団のたまり場>
昭和4年創業
地下金食の直管の
食堂ビルなのだ。

空家を探して
とある路地へ
入った私(川端
康成)は



川端康成は、昭和初期の浅草を舞台に
美少女・弓子を中心とした、アンブレ
劇を夢みる少年少女
集団の生きざまを描いたのです

1

ある
ピアリの
少女を
見つめる



彼女が、紅田のトグー格
ろ子で あった

2

私ほ、ピアリの
少女に似た
少年のあとを
つけていき、
(これは、明公であり
笑はろ子である)



紅田員に会う

3

木馬の
切や付まりの
少女
(笑はろ子)
は、にっくき、
姉の仇に
会った



4

ろ子は
姉の仇・赤木を
水族館に
誘う



へカジノアリーです

5

ナラに
隅田川に
浮ぶ小舟
紅丸に
誘ったろ子は
毒薬を含んだ
口唇で
赤木にキスを
せまるのだ



花川戸へ集まれ

これは 紅田の隠語で
地下鉄食堂へ集まれと
いうことなのです

(隅田公園と共に
昭和4年出来た)

さーこの続きは...
本を見て
下さい



1 2 3 4 5 6

東武 浅草 駅
工事場
地下鉄食堂
カンパ
国際
上のおまじの
場所には
この地図の□内の
どこです
浅草支庫
田原町

この頃（左図）やたら、「桜井敏雄」さんを見ました。

この左図の前は、坂野比呂志大道芸塾（木馬亭）で、この日は他に浪曲ロックの国本武春師（師はマトもな浪曲もうまい（失礼））や川崎の日の丸ちんどんさんなど、塾生の皆さんも（大熱演で）すごく面白かったです。

そして左図（5656会館）、（村井さんも共演）、そして左下の様にテレビと次々と「ラメチャンタラギツチョンチョンデ、パイノパイノパイ」です。

「ああわからない、わからない」など政治を風刺するものが多く（最初の頃のフォークソングもそうでしたね）、すごく面白い。こういう唄が、今の世の中にも必要なのだと思いますね。

左下に一寸かいてある女性性は、高橋さんと言って、この頃（台東区役所で浅草について知っている人を…と聞いたたら…巡り巡って何と私のところへ）来た人で、逆に林海象氏の映画「二十一世紀少年読本」とか「夢見るように眠らせて」など教えて頂いたりしました（浅草らしい映画で）（今は懐かしい坂野比呂志さんも、大泉滉さんも…大泉さんにも敬六さんの時、会いました…それに何と！ 仁丹塔の内部まで出ていましてびっくりしました…あがた森魚^{もりお}さんも出てまして…私はこの人のと浅川マキさんとの唄が好きなのです）。

この人は「江戸川乱歩」が好きなので、谷中三崎坂^{さんざきざか}の「乱歩」にも行ったりしました（「文学者の見た東京」という本があり、確か「康成の見た東京」「賢治の見た東京」やこの「乱歩の見た東京」と言うのがあり、作家が変わると東京がそれぞれ違ってしまいう様で、一寸面白いなと思うのでした。私も「乱歩の、浅草」が好きです。前ページはさしずめ「康成の浅草」というところですね。

お父さん君の浅草歌

(130) 桜井敏雄さん



変幻アコーディオンの
村井しげるさん

最後の
演歌師



添田啞蟬坊や知道さんたちの作った
庶民の唄、いつまでも、お元気で唄いつづけ下さい。

サトウハチローさんの唄を聞いてみると、心がやさしくなります。そのハチローさんの浅草時代は、4人の女性がいて、それでもやさしいヒポポタマスなのです。

エノケンさんをはじめ、浅草喜劇の黄金時代にこの人の果たした役目は大きい。いやむしろ、この人の個性そのものがそれなのかも知れない、と思うこの頃でした。

そのサトウハチロー記念館が、この秋に北上市に移転すると言うので、下の子と三の酉（この日は三の酉でした）の入船熊手を（小さいのです）持ったまま、一寸行ってみたのです。

若い人、特に若い女性が多く、氏の人氣に程にびっくり。この後、子がせがむので動物園に行き、本物のヒポポタマス（つまりカバ）まで見る事になったのです。

このやさしいヒポポタマスさんは、私の脳裏まで占領してしまい、「浅草文庫」のページを数カ月に渡って占領し、それに続き（浅草の唄の関係で）シミキンさんについてかく事になりまして、一寸この間の講師の先生のお話が、結果としてかなくなってしまうてすみませんでした。

この頃、人間ポンプの園部志朗さん死亡の報あり（又、又、幼き日よりのなつかしい小父さんが亡くなりました）。

この年の暮れ、何と！ 羽子板市が火事となり、TVでは26軒が焼け、2人が軽傷とか。行つて見ると前に取材をさせて頂いた琴山さんが、いつもお店を出していたあたりも焼けていました。

年があけて左図をかきました。

二月に家族して、上野桜木町の今村先生のお宅へお伺いしました。先生はお元気で、うちの家族全員に握手してくれたのでした。

この頃、桜橋の花まつりのまっぷを描かして頂きました。

浅草の老舗

134

さよなら
サトウ・ハチロー記念館



「ちいさい秋見つけた」…誰かさんが誰かさんがみつけた「ちいさい秋」みつけた。

浅草にも大変関係の深い
サトウ・ハチローさんの記念館が
文京区から、岩手県（北上市）へ
移転する事になったのです。

又、
春も近い（○）
木々が即となり
ましたか…
昨秋末の
ちいさい秋のお話しも
…実話…

場内は、これを
おしむ人々で、いっぱい、庭のハゼの木も
この日に合せたように、まっ赤に、
「ちいさい秋」の詩のように、紅葉して
いました。

◎ サトウ・ハチローさんについて P33でも
かきましたので…見て下さい。

サトウ・ハチローさんって こんな人！

① 生れは牛込薬王寺町

(明治36年)

小さい頃からグレはじめ
落第3回・転校8回

勘当

17回、

東京中の
留置所

は、たいがい
知っていた。



あ、これぞ
〇回目だ

②

ついに

小笠原へ

島流し、しかし

一緒に、ついて

きてくれた

福士先生と

楽しく

過ごす。



福士幸次郎

(ハチローの父、佐藤紅緑の弟子)

← この人が、又

交わっていま

した。

③

浅草では

大詩人を

夢みる



まあ
こんなモン
だろう



大不良。

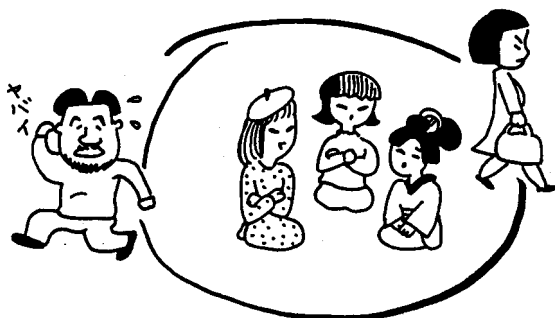
(だが、御迷惑

をお掛け

致しました)



こんな
場面も……



④ 19才で、
はじめて結婚したが
その後、はなばなしく

⑤ ハチローは
大きいので
エリケンが
寝るところなく
逆さに
ふとんに
入った。



⑤ 得意の野球が
役に立ち、浅草の芸能界とも
顔なじみ。

⑥ 特に、エリケンさんとは
気が合って、一フふとんに
寝る仲に。

⑦ 飲み屋で一杯レハから
新人、菊田氏に指示レ
名作も、つくり上げたり。



菊田一夫
後に「君の名」で、有名に。

とても
とても、かききれません、
特に、「りんごの唄」とか「長崎
の鐘」とか、ちいさい秋叶つた」
とかの、詩のことは、全く
かけませんでした。
⑧ 又の機会
お楽しみに。By By、原えつお



SKDの人達の何かお役に立ちたいといつも思っているのですが、この時一寸お役に立てたかな？と一寸思うのでした。

国際劇場がなくなつて、銀座（歌舞伎座）へ、新宿へ、そして分裂したり、解散したり、随分色々な事があつたと思いますが、彼女達はすごいと思います。

そしてこの四人の人達を中心にSTAS^{スダス}が発足し、第一回公演は浅草公会堂でした（モチロン行きました）。

ライندگانを見ると、いつも涙が出ます（この時も）。

そして左図、第二回公演のお稽古を見させて頂く事になりました。

稽古の会場は、浅草橋区民会館の多目的ホールです。

（へえー、こうして平服で練習してるんだ）ダンサーの娘がニッコリ笑いかけます。（あつどうも）女性ばかりの中なので照れます。四人の方が写真をとるので集まってくれました（がんばって下さいね）。

あとで、この漫画の載つた「浅草」誌を、大根やのあんちゃん（安藤さんだからあんちゃんです）に見てもらいました。「皆んな感じが出ているよ」（あー良かった）。大根やさんは、SKDの人達の溜り場なのです。

天王洲公演も、いつもの茂木さん、秀さん、宮本さんとで行きました（銀^{しろがね}さんの打つ太鼓は、宮本さんの所で作つたものです）。（相変わらず高城さんは美しいし、千羽さんは男らしい（失礼）。今回は、銀さんと明石さんがいつもと一寸違って見えました。つまり、銀さんは不良っぽいし、明石さんは毒がなく見えました。いつもと逆です（私はそう思っています）。

ここで一寸、SKDの団歌を紹介しましょう（冒頭の部分だけです）。

♪さくら咲く国 さくらさくら♪

（がんばって下さい）

君の浅草舞台

135

がんばって、オフィスSTAS



3月18日(月)より 24日(日)まで、ロマンチックな街
 天王洲アイレ、アーツフィアにて行われる。
 <SKD・OG オンステージ> オフィスSTAS 第2回
 公演の稽古を、見せていただきました。



明石 薫

千羽 ちどり

美 輝

高城 (たか いさよ)

銀 ひ乃 (しろがね)



STAS とは、この
 四人の方の 頭文字を含めたものです。

※ 第1回公演(於、浅草公会堂)も素晴らしいものでしたが、今回も
 素晴らしい、レビューの舞台を、期待しています。

平成 8 年 3 月号

寅さんの渥美清さんが死んだそうだと初めて聞いたのは、森本村長からでした。

ところがその三日前、新聞に、今村先生が亡くなられたという死亡記事が載っていたと母から聞かされました（平成八年八月四日の事）。新聞には「今村恒美氏Ⅱ挿絵画家、元出版美術家連盟会長、本名・栄Ⅱさかえ）2日午後1時14分、肺炎のため東京都港区の赤坂病院で死去、87歳。福島県出身…」等とあり、この新聞に載った次の日（五日）のお通夜に行く事にしました。

会場は荒川区の町屋斎場で、着いたらもう行列が出来ていて、見覚えのある人たちもいっぱい、その行列に並んでおられた。出版美術連盟の先生のお仲間の伊勢田先生、逗子とんぼさん、みす乃家南玉さん（南玉さんは、今村先生はきつと自分が死んだの知らないよと言うのでした）。お焼香が終りお清めの席（八人位座れる）に着くと、内海桂子師匠、大西信行先生、行徳の菓匠・京山さん（こちらのお菓子の包装紙は、今村先生の画でした）、高田米造さん、みちくさの奥さんと御一緒に、今村先生の事で座が盛り上り「死んでもからも楽しませてくれる先生だな」と思いました。

帰り、京山さんと町屋駅まで歩きましたが「ちつとも悲しくない。先生は幸せな人だ」と京山さんは言うのでした。

ところが、あとで聞いたのですが…この時今村先生の斎壇は向って右の方でしたが、左の方で「田所家」という葬儀が行なわれていたそうなのです（渥美清さんです）。

そして更に偶然ですが、かつば寺の御隠居も、この時茶毘たびに付されていたそうなのでした。後で知りました。

かつば寺の御隠居（九十四歳）、今村恒美先生（八十七歳）、渥美清さん（六十八歳）…この時丁度、「浅草文庫講演会」のシミキンさんについてかいていたところで、今村先生の事もかせて頂きました（次ページ）。

ポポロの浅草



さよなら寅さん その1



※ 浅草は、渥美清さんと関係の深い町ですから、もう少し、何かあってほしいのに、と、思いました。

今村恒美先生 との思い出

原えつあ

今月号は、この
八月二日に、あちく
なりになりました。
今村先生のことを
かかせて
いただき
ました



(その
やさしい 目が、
時々 するどく見え
ました)



②

誕生会

今村先生の誕生日は、3月の
31日で、よく「桃太郎」さんで
あり、私も、お呼び下さい
ました。
(たよへつづく)



(私ごとで、すみません)

そのあと、2軒も、連れ
ていつてくれたのです。
この翌日、長男が
生れましたので、その目を
よく覚えていたのです。
何と、その日、先生は

① 昭和60年6月16日

はじめて、私が、今村先生に、会ったのは、
「ホホ君」とも、連載させていたたい
まも、多くの頃でした。『況正』さんの、マスタ
ーが、二つ隣に座うれた、先生に、私を紹介
してくれましたのです。



何しろ70の芸人さん達も、大勢で
それは、楽しいものでした。又、
旅行の会にも、呼んでいただき

そのおり、私は、おぼけて、向い側に
寝ておられた先生の枕を取って
しまった事が、ありました。
(先生 すみません)

③ かつば画の
秋原楽一先生と
三人で、みちくさん
さんで一杯した事が
ありました。
もっとも飲んだのは
私一人でした
楽しい、思い出
です。



④

浪曲の事や
勿論絵の事や
も(少し)教えて
いただきましたが
中で、一番印象的
だったのは「生前の
シミキン」さんを
見た、最後の人間に
なってしまった。
と、言う事で、又、
次回より
「シミキン」さん
のお話には、
戻させて
いただきます。



昭和
41年
10月9日の
事だそうです。

先生有難う
ございました
おれ

平成8年8月19日画文

浅草文庫 第22回講演会より

◎喜劇王 シミキン さん

〔講師〕朝霧鏡子さん（シミキン夫人）

逗子とんぼさん（シミキン弟子）



さて先月号の
今村先生のお話と
朝霧さんのお話し
を合えますと
こうなります。

昭和41年10月9日
朝霧さんは、昔のSKDの仲間と
熱海へ一泊旅行へ出掛けることに
なり、シミキンさんは、東京駅まで
見送りに来る。シミキンさんは、
② このあと、上野桜木町の、今村
先生宅を訪ねる。そして
いよいよお辞儀をして、帰った
のですが、その夜、



③
 その夜、今村先生へ
 シミキンさんより
 電話が、かかってきて
 富ヶ谷（渋谷区）の
 飲み屋にいるから
 来てくれと言おう
 （シミキンさんと朝霧さんは
 この頃、富ヶ谷に、住んでいた）
 車をとぼして、行ってみると
 ビールが十本ばかり並んで
 いた。（シミキンさんは酒が
 好きで、心配していた）



④
 そこで、今村先生は
 シミキンさんに、酒を
 やめさせ、家まで
 運ば、「大人しく
 我慢てなキヤだめだよ」
 と言った（シミキンさん
 も、ニコツとし）帰った
 の、でしたが……
 翌朝、シミキン
 さんは、七くねって
 いたのです。



明るさが、光りものの
 シミキンさん、今回ハ
 暗いお話で、スミマ
 センデシタ。

夜中に、
 トイレに行こうとして
 倒れ、うちどころが悪かった
 のでしよう。



「天国で、今頃、今村先生と仲良く
 飲んでいるでしょう」と、朝霧さん。



By. 原えつお
 次回ハ
 思いきり明るく。

さて左ページは、最初に今村先生にお会いしたその日、連れて行って下さった「みちくさ」さんです。その日：

先生は脱兎の如く、千束通りを走られたのでした（もちろん私も続いて）。

先生は「お神楽の恒と呼んでくれ」とか、「関東節と関西節とは違うんだよ」とか：「例えば『髪型』とかテーマを決めてかくと、長く続けられるんだよ」等と話して頂きましたが、私なんかは先生とのお付き合いはまだ浅い方で、もっと深いお付き合いされた方々は多いと思うのです。

「みちくさ」さんは、画の様に先生の絵が沢山あります。まるで個展会場です。Hな絵もあります
が、イヤラシクナイのが先生の骨頂です。

「おお・ぬし大マラ主の命」の唄を唄ってくれた事があります（沢正さんで）が、これも大らかなもので、ほのぼのとしたものでした。

あの日、もう一軒連れていってくれた「サト」さんは、その後確か関西の方へお嫁に行きました。入口の上の壁に「永井荷風直筆」の額があつて、その後私も珈琲を飲みに行ったりして、今の文楽さんや紙切りの正楽さん、貞丈師匠などをお見かけしました（今はそのお店は、初代・浅草駒丈夫さんのやつている「ベル」というお店になっております）。

この左図の載った「浅草」誌をお渡しした後、みちくささん御夫婦で、うちの方の下町七夕まつりなど来てくれましたが、御主人がお亡くなりになり、近所の町会事務所で葬儀が行われました。

故人はハーモニカが好きだったそうで、月の砂漠など、ハーモニカ曲の流れる中、葬儀委員長が、ぬっ！と出て来ました。コロンビア・トップさんでした。そして夫人の脇には、故エノケンさんの夫人のよしゑさんがいたのでした。浅草だないと、私は思うのでした。

おどろきの浅草

142. 今村先生の絵のあるお店



原えりか

浅草三丁目に

今村恒美

先生の絵が

たくさんある

お店があります。

活魚・即席料理の
「みちくさ」さんです。

「こんな絵も
かいたのですね。」

「みちくさ」さん

浅草
3-19-4
TEL
(3875)
3193

「みちくさ」さん
の絵も
帰りに
見て下
さい。

これだけ、たくさん
今村先生の絵が見られる
お店は、ないと思います。

「ここにある絵が
面白いのですが、これは
行って見て下さい」

最後の「文庫講演会」で、逗子とんぼさんと朝霧鏡子さんに、シミキンさんについて色々お話をし
て頂きましたが、その中で「シミキンさん」とんぼさんが「デュエットしている曲のテープを聞かせ
て頂きました。（それが左図です。いいでしょう）」

それから、敬六さんがいつも唄っている「浅草の唄」の前に、一番、二番がある事も知りました。
「浅草の唄」は、元々シミキンさんの「浅草の坊ちゃん」という映画の主題歌だったそうで、それが
気に入って、シミキンさんはその後の舞台でも、いつも唄っていたのだそうでした。

それに敬六さんの唄っておられる四番の歌詞の最後から二行目のところに、

「よもぎ月」という所があります。これはサトウハチロー記念館で買ったCDで（藤山一郎さんが唄
っている）も：「もえぎ月」なのです（もえぎとは、萌黄もえぎの事で若緑色の事です）。以前「食べある
記」で蔵前の「八百屋せんべい」さんを取材させて頂いた時のお話ですが：八百屋せんべいさんは包
装紙が萌黄色もえぎなので：私が若緑色と書きましたら、御主人は「すみません萌黄色もえぎにして下さい」と言
われるのでした。萌黄もえぎという言葉を大切にしておられるのが良くわかりました。

そこでこれは是非、後世の為に、「もえぎ月」として頂きたいと思います（どこかで変わっちゃっ
たんだろうと思うのです）。それでは一寸しつこいですが、四番の歌詩を左に記します（これはサトウ
ハチロー記念館のCDを写したものです）。

♪吹いた口笛 夜霧にとけて

ぼくの浅草 夜が更ける

鳩も寝たかな 梢のかげで

月が見ている もえぎ月

ああ浅草の おぼろ月♪

浅草 散歩 君の 浅草 友響楽



原の先月号、一寸歌詩を、まちがいましたので、訂正を兼ね、2番まで紹介させて

浅草友響楽

サトウハチロー

作詩

さかすきに

酒は なくとも

土音 びを

涙と共に 飲みほそを

明りがついたらよ

どこに ついた

あちらに こちらに

心の 窓に

※ ホイホイ

浅草

ホイ バンザイ



(サトウハチローさん)



シキン (清水金一さん)

(返子とんぼさん)

隅田川

春遠うからじと

流れ行く

くるくる 幸せ

どこに くるよ

そこにも

君等に 僕に

※くり返し

◎ 返子とんぼさんには、お聞きしました。
さすが、サトウハチローさん、良い詩ですね。

たしま いらも

平成9年3月号

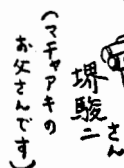
第22回 浅草文庫講演会

喜劇王 シミキン

さんについて



講師 朝霧鏡子さん
逗子とんぼさん



弟子になったのは、「オオ！
市民諸君」(松竹昭和23年)の
時で、金ちゃん(シミキン
さん)は、ターザンの、かっこ
を、していました。



「豪傑人形」(昭和15年)、「だん
だら絵巻」(同)、「電撃手息子」
(同)の三本でした。

東宝映画でした
初めて見たのは

では、まず
私が、シミキン
さんを、初めて
見た時の、お話し
から、しましょう。



逗子とんぼさん

朝霧鏡子さんには、つい、つい、初めの1の出会いのお話しをお聞きしませんでしたので、かわりに今度松竹ビデオより発売された（何と、一挙に八本も、シミキンさんの映画が出たのです。一つ三八〇円）のうちの一本「シミキンの結婚迷子」に、ついで

そのあうすじをかかせて頂きましょう。

これは、お二人が初めて共演された映画なのです。（昭和23年作品）

① さて

朝霧鏡子さん

シミキンは、社長（柳家金語楼）の令嬢に恋してしまいましたが、何と！他の候補者と競争することになったのです。それも、歌や踊りで...

② この人は、歌で勝負（何と！近江俊郎さん）

③ この人は、詩の朗読を

④ さて、シミキンは面白く踊りと歌を...

⑤ しまいには、トンボも切るのです...（さすがー！！）

⑥ 令嬢が、シミキンに決めたとは知らず、逃げるシミキンさんを追う社長（金語楼）この追かけが又、すごく面白いのです！！

さて、次回へ

モキロン！朝霧鏡子さん

今村先生が亡くなられて淋しい浅草の町ですが、「文化観光センター」の受付や、仲見世の民芸屋の「助六」さんの店先や、新仲の「江戸屋」さんの包装紙等々、浅草のあちこちで、先生の絵がほほえみかけてくれます（やっぱりすごいな）。

メトロ通り（この敷石は、都電の敷石だったものだそうです）を一寸入ったところに、荷風散人お気に入りだった、キッチン・アリゾナがしばらくその姿のままあったのですが（私は良く見に行きました）、この頃さら地となり、がっかりしていたのですが、改築だそうで良かったと思いました。そして、合羽ばし通りの同じく荷風先生お気に入り（荷風先生は、気に入ると週に何回も通ったりするので。まるで恋人に会う様に）の、どぜうの飯田屋さんが、同じく改築する事になりました（私も小さい頃より目に馴染んでいる建物ですから、古い建物がなくなるので、一寸スケッチさせてもらいました）。

大体、こうした老舗が改築すると、ロクな事がありません。味が落ちたり、風情がなくなったり（一寸心配しました。前が良すぎたので）。

しかし一年半後位に新築になって、その幕が取りはらわれた時、その心配が杞憂きゆうだった事を知るのでした。

「まるで歌舞伎か新派の劇場のお披露目だね」という声しきり（その日は和服の人も多く、本当に私には、新派の舞台の様に見えたのでした）。

嗚呼、国際劇場も、仁丹塔も、松竹演芸場も、トキワ座・浅草松竹・東京クラブの三館も、こうして改築だと良かったのにな、と思うのでした。

ドイツのある町では、大戦で破壊されたその町を、その前と全く同じ様に、町をそのまま復元したという例もあるそうです。町の活性化の為に、復元という手もありますね。

お父さんの浅草散歩

148. かっぱ橋通り 飯田屋さん



下町の飯店で営業するようです。

しばらくは

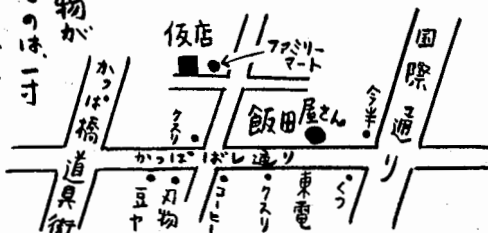


永井荷風先生ゆかりの、キッチン・アリゾナが
建て直す事になり
同じく、荷風先生の、お気に入りの
どぜうの飯田屋さんに、なりました。

荷風先生
好みの
新しい
お店が
出来る
でしょう。



古い建物が
なくなるのは一寸
残念ですが、



平成9年4月号

鬼平の、市川先生

今村先生

伊勢田先生



湯河原にて

みす乃家南玉さん



浅草公会堂
一フロアーにて

みす乃家南玉師・今村先生の原画展会場にて
がんばるの図

◎ 第22回 浅草文庫講演会
のあと、飯田屋さんにて

飯田さん



丹野さん



逗子とんぼさん



↑
須藤さん

(シキン夫人)

↑
朝霧鏡子さん

↑
森本村長

↑
路鳥巢さん



↑
飯田さん

↑
遠藤先生

↑
高田さん

◎ 新宿ビブランシアターの
南風カオルさん、文福太郎さん
の、二人会のあと、一寸、コーヒー

でんすけ・スイカというものが北海道にはあるよと、弟から聞いていましたが、それがどうも浅草の「デン助」さんの人気にあやかかって名付けたそうなので、嬉しく、又びっくりしました（この事も、後日又、ポポ君でかかせて頂こうと思っています）。

さて左図ですが、旭川ラーメン村です。この、前から見るとラーメンの丼の様な建物の中に、8軒程のラーメン屋さんが入っていて、皆、評判が良い様なのです（弟の一家が転勤で当地へいったので、我家も皆で行ったのです）。

この後、札幌のラーメン横丁へも行きました：喜多方、東京、博多等々と各地のラーメンが大人気。一体このラーメンの魂力、ラーメンパワーはどうしたものでしょうか。

横浜に出来た「ラーメン博物館」（実はこの方が数年前の事、我店の写真を撮らして下さいと見えたと事があり、聞けば昭和30年代の町並を再現したい、と言うのでした：それで気になっていたのでした）。

そこに、浅草で有名だった「来々軒」が再現されていると聞き、早速子供達と行ってきました：のが、その2ですが、この本に載せられなくすみません。

館内は、昭和30年代の町並が見事に再現されていて、大変居心地良く（子供達も）、いっそ浅草も、全体的にこうなったら良いのに等と、又、又、思うのでした。

（ラーメンは、我町内の「来集軒」さんが一番旨いと思います）

さて札幌では、ススキノのダリ事、遠藤河童さんに大変お世話になりました。その渾名あだなの如き、ピンとはね上った口ヒゲ、西部の伊達男の様な派手な服（帽子には花まで付いています）、その人が片手を一寸上げて「やあ、いらっしやい」てな感じで：いい人でした。



君の浅草散歩

153 来々軒 うらっけん の話 その1

原 えつお H₂O



今の、すれや通りの入口、パチスロ 宇宙センターの戸外です
(上の土地図は、大正10年の土地図を写しました)

織田編集長が、

「今村先生の原画展やってあげたいな」と言っていたのですが、それが実現する事になりました。場所は、浅草公会堂の一階です（平成十年十二月の事）。

そしてその会場で、すみ乃家南玉師匠が、今村先生の原画たちに囲まれる中、「風流物売の声」を上演してくれる事になりました。

先生の「江戸商売往来の絵」を一枚一枚めぐりながらの口演です（次ページにこの日の事も一寸かきましたので、載せさせて頂きました）。

「原さん、こんなに気持ちよく演^やらせたもらったのは初めてだよ」と、師匠は嬉しい事を言ってくれたのでした（私も嬉しい）。

織田編集長も、満足げに見えました。

（今村先生も、きつと喜んでくれています）

さて左図は、その南玉師匠が「原さん、江戸博でいいものを見つけたよ」と言ってくれたもので、あんまり面白いので（江戸の人は面白い事考えますね）のせさせて頂いたのです（上にペンギンの画があるでしょ、これは私と南玉師匠しかわからない、判んじ絵です：ペンギンのいるのはナンギョクです。それに濁点が付いています。つまり、ナンギョクです。それに339と続けて、ナンギョクサンキューです。一寸お恥ずかしいですね）。

この頃「浅草がんばる会」のイベント「浅草ええじゃないか」があり、イラストまっぷをかかせて頂きました。浅草がんばる会は、元・デン助劇団におられた河野さんを中心に発足したもので、この「ええじゃないか」は、大変な盛り上りでした。そしてその時、河野さんより紹介され、昔、デン助さんの絵看板を描いていたという屋代さんにお会いし、感激しました（あのデン助さんの絵を描いていたのが、この方なんだ）。屋代さんは優しい人でした。

君の浅草

スレぶりに
はんじ絵について

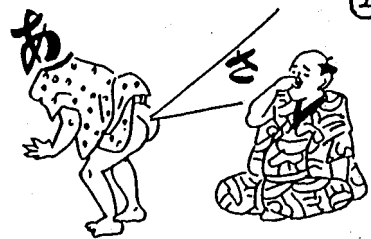


さん歩



原えつお

(5) 真珠かい (9) 新宿 (4) 鶴 (3) 本と (2) 浅草 (1) 舌に矢で (下谷) 答えは (下へ)

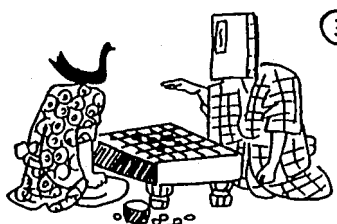


②

どうです
わかりますか
地名です
(答えは
下へ)



①



③



④

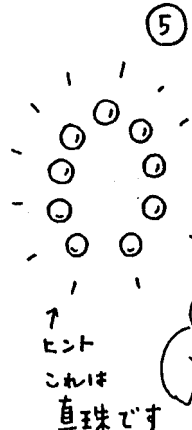
※読者の皆さんへ
面白、ものを考えられた人は
編集部まで作品をお送り
下さい。



敬言部です

BLACK

⑥



⑤

恥づかしながら
私も作ってみました



ヒント
これはい
まじり

号 2 月 10 年 10 平
① 舌に矢で (下谷) ② あさ臭 (浅草)
③ 答えは (下へ) ④ 鶴 (本郷) ⑤ 真珠かい (新宿) ⑥ 敬言部です



◎ さし今日より

浅草文庫 第十八回

講演会「^だ太神楽^{ぐら}」について

お話しを

かかせていた

だく運び

ですが

その前に

昨年の十二月の

今村恒美先生の

原画展下の

当講演会の講師の

みす乃家南王、師によります

「江戸暦 渡世の絵姿」について、一寸

かかせて頂きました。



上図は

(あさり売りです)

(貝からのついたまきのほ
から あさり と言った
やうです)



左図は

(煙草管(キセル)売りです)

(竹は、ラオス産
なので
うう竹
とか)



◎

今村先生の原画展では

思える、先生の、その会場で

是非、口演させたい

ということだ、

実現したので、

(原画展に、あったり
でした)

◎

南玉師匠は、今村先生の

教えも受け、先生の描かれ

ました「江戸商売往来の絵」

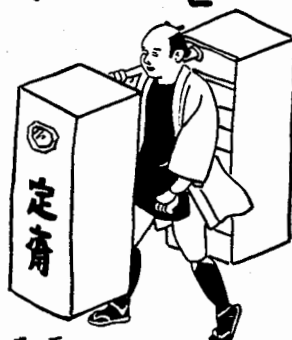
を見ながら、江戸の情景

を再現する という芸を

身につけられたのです。

(生きている、今村先生の絵

というかんじですね)



今村先生

下手に模写して
すみません

↑

(定齋屋
さんです)

(初めは、
二人一組で
売っていたそう
です)



さて、この南玉師匠の太神楽のお話は、次号よりのお楽しみに。

さてこの頃、私は一寸、有遊会への出席が良く？ になりました。

左ページは、実は有遊会の勉強会で考えたものです。私は傑作だと思うのですが、有遊会の猛者の中ではまだまだで、笑品はもらえませんでした。賞品ではありません……上出来の人は、笑品がもらえるのです。しかし、それをもらうとき、その笑品についての洒落を言わなくてはならないので、これも大変です。諸先輩の中で私は、二村さんの（笑品は洗剤でした）「これはセンザイです。両手をあげるとき、バン（万）ザイと言います。だから私は、片手をあげます。「セン（千）ザイ」と、松井さんの「これは、ワインです。ワイイング」には、泪が出ました。左の様に三題断を作ったり、回文（上から読んでも下から読んでも同じ言葉）を作ったり、雑俳（上の句は風雅な言葉を入れ、五・七・五を作り、オチをつける）などを作ります。皆、江戸時代流行したものです。

こうゆう会で、こうゆう人達の中に、今村先生は居られたのだなと、つくづく思いました（こんな会は、日本中探しても、滅多にないでしょう）。

左図上の「寄席発祥之地」の碑についても、この会にて教えて頂きました（もちろん、小島先生はじめ多くの方が、下谷神社へ行ったのだそうでした）。

次の日曜日、私は早速、行ってみたのです。それから下谷方面をぶらぶらし（この辺は、空襲の被害に遭わなかった古い町並があり、妙に心落ちつくのです）、源空寺で伊能忠敬（五十歳で学問を始め、全国各地を歩き、地図を作りました（有名ですね）と師の、高橋東岡先生のお墓を見（二人のお墓は、仲良く並んでいるのです）て、我家に帰りました。

それから二週間程して文福太郎さん（やはり有遊会）から頂いた券を持って、新宿御苑近くのミニホールへ行くことになるのでした……つくづく

お・お・君の浅草散歩

161. 三題新に挑戦



H20
わか

地下鉄・稲荷町駅りそばの
下谷神社の境内に
寄席発祥之地の碑が
建ちました

江戸落語の
始祖・三笑亭可楽らが
寛政十年・初めて
有料で咄(はなし)
の会を行なった
のだそうです。
その後、初めて
下の三題を客よりもうい
三題新(はなし)も始めました。

◎ところがこの記録(作品)
が、残っていないそう
じ、私もこの
題で三題新
に挑戦してみました。

◎五条の橋の下で
牛乳丸に負けた
井・鹿・が、ヤケ酒を
飲んでおりますと
丁度まん前で
狐がドロンと
逃。君に化けました
井・鹿・は目をこすりながら「よかったか」
(こんなの
だったの
じゃあ?)

◎ 三題新 ... 客席より、3つ 品物や人名など 書いてもらい、それを
おりにんじ 即席 の話 を つくる ものです。

さて有遊会は、多芸多才多士ですが、何んと言いましても一番目立つのは、左図の、「田辺一鶴」師匠です。いつも舞台からころげ落ちそうな大熱演で、ついつり込まれて見てしまいます。

その一鶴師匠は、パソコンは各社のを殆ど持っていて、その特長を熟知されているというのですからびっくりでしたが、この程、芸能関係専門の古書店をオープン！ という事で、もちろん、「浅草」に関するものも沢山あるというので、おじゃましたわけです。

雷門通りから、平井行のバスがあります。平井駅前より一寸行くと「イッカク書店」がありました。この日は、暑い日でした：

丁度、師匠は左図の吉井さんと、お茶を飲もうとしていた所で、私も頂きました（おいしかったです）。

「うーん、漫画家なら水木しげるさんは、良く知っているよ」と師匠（この事は私も知っています。水木先生の漫画に一鶴師匠は出て来ますので、見て下さい）。

さて前ページの、つづきです「文福太郎」さんより切符を頂き、新宿のミニホールへ出掛けました（南風カオルさんと文福さんの二人会でした）。客席には、お見かけした顔が御三人、やはり有遊会の遠藤先生（笑点の作者）と高田米造さんと飯田さんでした。

ショーは、文福さんお得意の獅子舞と玉すだれ、南風さんはご存じ国定忠治でしたが、その帰り、その御三人と珈琲店で一寸、コーヒーを飲みました時、飯田さんが「一寸原君に頼みたい事がある」という事でした。

飯田さんは、劇団にんげん座という劇団の代表で、今度やるお芝居のチラシをかいとくれというのでした。そして劇中に使う一寸した画も。その会場はと言うと先程のミニシアター、新宿ビブランチアターだったのです。

歩々草浅の君。ポ。ポ。ポ。



165. イッカク書店



場所ハミ江戸川己平井
二一二五〇ハ



これは、私が
買ってしまいました
(スミマセン)

営業日
水曜～日曜の
1時～8時
この事

さて、新宿ビブランチシアター錦秋公演！

飯田一男、作・演出による「ふるさと」は、遠くにありて」劇団にんげん座公演の始まりです。場内のざわつきが静まる頃、舞台が暗がりの中から看護婦姿の美女が出て来ました…。

「お待たせ致しました。見学にいらしたみなさんご苦労さんです。ここが私の職場、ひまわり老人センターです」と始まります。

（オイオイ、老人ホームのお話かよ、嫌だなー。それに我々は、見学者かいな）。月光価千金で、エノケンさんが現れます。

（えー本物みたい。駒けんじさんって言うんだ。そっくりだな）

それから偶然、元・浅草の役者だった人が集り、老人ホームですから、ボケ防止の為、昔、浅草でうけた芝居をやる事になります。医者や看護婦や色々な職種の人手伝うという事になります。

（へー、どんなお芝居をしていたのかな）
最初は「峠の茶屋」です。

（大体バミ太郎って名前が面白いなー）

次は「公園のコントです」

（へえー、洒落ているなー、それにHだ）

「神崎与五郎・東下り」

（ガハハ、こりゃー面白いよ。Hだし）

最後は南風さんの「番場の忠太郎」です。

（ウヘー、番場の忠太郎かよ。しかし南風さん、妙に若々しく見えるなー）

これらの間に、めだちさんのコントや川雅子さんの、ど迫力でHな素朴な踊りや皆んなの「虫干しおどり」が入ります。

私の絵も一寸出てきて（この時は、多分、私だけドキドキ）

こうゆう芝居を昔は、浅草のあちこちの劇場でやっていたのだそうです。私もこのお仲間に加わらせて頂いて嬉しく思うのでした。

ふるさととは遠くにありて…室生犀星の詩ですね。しかし、これはこのあと、こう続くのですね。そして悲しく唄うもの…。

お・お・お君の浅草散歩



167. がんばれ! 劇団 にんげん座

劇団 にんげん座

ベテラン 南風 カオルさん

（目が見えない）

上のまふたの下のまふたも今も一緒

平成十年十一月
六日より八日
新宿ビブランシアター
飯田一男作・演出
に
ふるさとほ
ま遠きに
ありし
公演が
あります

（ア・サナン）
木村井いげん

お問い合わせは 3350-7922 ビブランシアター

笑い 駒けいじ

浅草早の軽演劇
のはつかりいん・ヌ

浪曲師 江え

必見でしよう

演出の 飯田一男さん

浅草でもやって下さいヨ

唄 日本一

モノマネの エノケンの

見な

キャー

色気

浅草の目生

めたち

けん一さん

かハハ

踊り 峰山岸松子

川 雅子

ナサメ

ゴメン

坂原 伸武

美樹

金子

大村

浅草さん

あとがき

さて、このビブランシアター公演にて、この「ポポ君の浅草散歩」も、ひとまず「幕」とさせて頂きたいと思います。有難うございました。

「それでは！ この本に御出演の順にキャストの皆さん（…お世話になりました方々です）、今一度の！ ご登場！ お願い！ 致しますす！！

〈拍手〉

（ここで、ブン大将の音楽が入ります）

♪♪

ラッタッタ ラタラタ ブン

大将閣下ノ名ハ ブンブン

ラッタッタ ラタラタ ブン♪♪

（次々と登場して頂きます）

「以下の方々に、お世話になりました」

（さらに拍手が起こります）

武政さん、丹野さん、小木曾さん、織田編集長、吉原松葉屋の御主人・福田さん、北見治一^{はるかす}さん、阿木翁助先生、今戸焼・白井さん、笑友会・木村朝子会長、「赤提灯」町田さん、シヨパン猪狩さん、

ロック座会館さん、「沢正」平野さん、筑波喬一郎さん、小島宏之さん、広島健さん、さむらい日本さん、劇団「若獅子」の皆さん、「浅香光代劇団」の皆さん、今村恒美先生、今井さん、朝霧鏡子さん、逗子とんぼさん、「サト」さん、「みちくさ」さん、勘亭流の保坂光亭先生、SKD、北春日部の羽子板職人の組合長の金子さんと京極さん、漫画の仲間の鶴田さん、北沢吉昭先生・吉和先生、みのもんたさん、有隣堂の村尾さん、旭輝子さん、吉村平吉先生、焼かつの「桃タロー」さん……この後、延々と続きます……

「うわー、私は何て多くの人達のお世話になったのだろう」。

（ブン大将の音楽は、なおも続きます）

「皆さん、有難うございました」。

了

エビローグ

さて、フロ（風呂）ローグで始まりましたので…終いは、エビ（海老）ローグで終りにさせていただきます。

浅草で、「海老」と言えば…大海老がドカツとのかつ、尾張屋さんの天ぷらそば？ 荷風散人の好きだった、キッチンアリゾナさんの海老フライ？（そう言えば、新装なったお店に、荷風氏そっくりの粉装をした人が入ってきたそうですね）、言間通りの大阪屋さんも良いな…などと思いつつ、箸を…いや、筆を置かせて頂く事に致したいと思います…

「あー、丁度うちの前を、にんげん座のエノケンさんそっくりの駒けんじさんが通って行くじゃあ、ありませんか」

「どうも、この前は」

「やあ、僕は昔、この辺に住んでいたのですよ。そこの渡辺産婦人科のそばの…」

そうなんですよね。この辺は、特に私の住んでいる西浅草二丁目は、昔、浅草田島町と言って、六区に出演する芸人さん達が沢山、住んでおられたのですよね。

「じゃあ、又」

手を振って去って行かれる。駒さんの後姿が、とても爽やかに見えたのでした。

どうも最初は、「ポポ君…」だけの、ささやかな小誌にしようと思っていたのですが、食べある記、そして浅草文庫講演会での各講師の先生のお話、おまけに写真まで入れてしまい、こんなにふくれあがつてしまいました。

この「本」を作るのにあたりまして、月刊「浅草」の織田編集長、そして山浦印刷俵の大森欣也氏には、大変お世話になりました。有難うございました。

※なお、「食べある記」や「浅草文庫講演会」での、各講師の先生方の、お話などにつきまして、もう少し知りたい方が、おられましたら：台東図書館の「郷土資料室」や、もちろん、雷門前の文化観光センター3Fに、仮移転中の「浅草文庫」に、月刊「浅草」のバックナンバーを大切に保存して頂いておりますので、そちらを御覧下さい。

了



マリコ

ポポ君の浅草散歩

一九九九年四月一日 初版発行

著者 原 えつ お

発行 ア ド 下 町

東京都台東区雷門 1-16-11

チドリヤビル 202

☎ 03・3842・7796

印刷 刷山浦印刷(株)

東京都文京区関口 1-39-10

製本 山浦印刷(株)

定価 一、五〇〇円

アド下町出版部
一、五〇〇円

